

－ バーチャルラボシステムの活用事例紹介 －

農林水産研究情報総合センターでは、プロジェクト研究などに参画する複数機関の関係者がサーバを共有できる『バーチャルラボシステム』のサービスを提供しており、システム構築やデータ蓄積にご活用いただいています。サーバの管理は、情報総合センターが行いますので、AFFRITユーザであればどなたでも安心してご利用いただけます。(バーチャルラボシステムの詳細は、<http://itcweb.cc.affrc.go.jp/affrit/vl> をご参照ください)

国土交通省国土地理院主催 『電子国土賞』コンテンツ部門 受賞

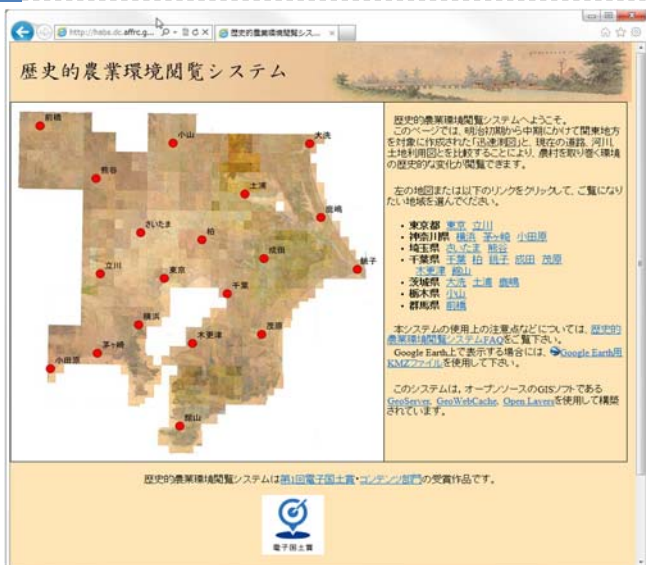
「歴史的農業環境閲覧システム」<http://habs.dc.affrc.go.jp/>

(独)農業環境技術研究所 生態系計測研究領域 岩崎 巨典・デイビッドスプレイク



ニュースはWebで
発信しています。

<http://sto.affrc.go.jp/publicity/publication/affrit>



過去の土地利用を知ることは、持続的な農業活動や里地里山の適切な環境保全にあたって、基礎的で重要な情報になります。過去の土地利用を明らかにする場合、「第一軍管地方二分一迅速測図原図」(迅速測図)が重要な資料となります。この地図は、明治13～19年(1880～1886年)に関東地方平野部を対象に簡易的な測量方法で作製された地図です。その特徴は、土地利用毎に彩色されていることで、130年前の土地利用を容易に知ることが出来ます。

歴史的農業環境閲覧システム(HABS)は、この迅速測図をインターネット上で見られるようにしたWeb-GIS(地理情報システム)です。システムの作成にあたっては、FOSS4Gと呼ばれる無料で自由に利用できるGISを使っています。また、FOSS4Gに加えて、前述のバーチャルラボシステムを利用することにより、効率的なシステム構築と安定した運営が可能となりました。

システム構築の詳細につきましては、<http://cse.niaes.affrc.go.jp/niwasaki/pdf/17-1-83.pdf> および
<http://www.niaes.affrc.go.jp/inventory/annual/08/inventory0805.pdf> をご覧ください。

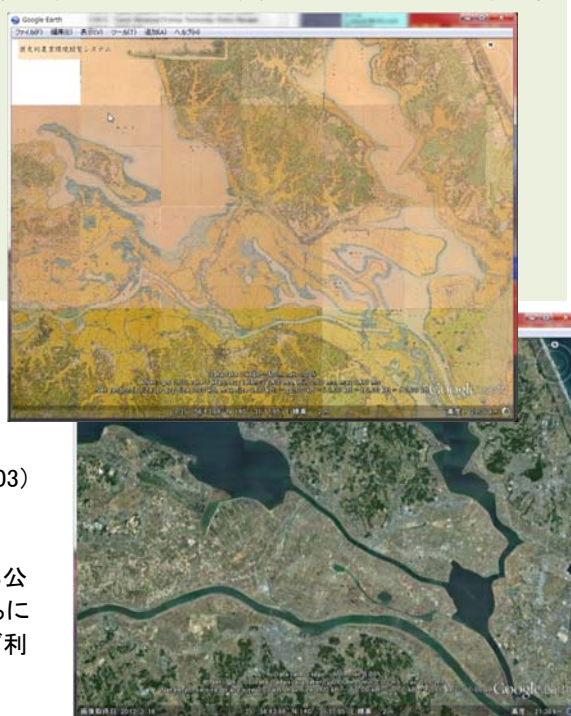
HABSでは、二つの方法で迅速測図を閲覧出来ます。

1. Internet Explorer, Firefoxなどのインターネットブラウザで閲覧する場合
トップページの地図上の地名をクリックすると見たい場所の地図を表示することが出来ます。ここでは迅速測図の他に、同時期に作成された五千分の1東京測量原図や、現在の地図である基盤地図情報を表示することも出来ます。
2. Google Earth上で閲覧する場合
同じくトップページにあります「Google Earth用KMZファイル」をクリックして頂くと、Google Earth上に迅速測図を表示することが出来ます。Google Earthでは詳細な衛星画像を見ることが出来るのと同時に、迅速測図の透明度を変えることが出来るので、明治時代と現在の土地利用の変化を容易に確認することが出来ます。

このように、HABSでは農業環境だけではなく、土地利用の変化を容易に分かりやすく確認でき、教育、研究、防災などの分野でも利用されています。これらの点が評価され、第一回電子国土賞のコンテンツ部門を受賞致しました。

(http://psgs.v.gsi.go.jp/koukyou/G-award/list_award1.html#nominate03)
これも、多くの方にご利用頂いたおかげです。

今後は、視図と呼ばれる過去の景観のスケッチや、国土地理院から公開されている電子国土Webなどを重ね合わせられるように改良し、さらに使いやすく、役に立つものに改良していく予定です。ぜひ多くの方にご利用頂き、身近な環境を知るきっかけになれば幸いです。



トピックス:

パスワードは
定期的に変更し
ましょう!